

8月27日 : WAW ! Tokyo サイドイベント JICA 主催国際シンポジウム「平和構築と防災分野における女性の参画とリーダーシップの発現に向けて」

<p>概要</p>	<p>2015年8月27日（木）にJICA研究所にてJICA主催国際シンポジウム「平和構築と防災分野における女性の参画とリーダーシップの発現に向けて」を開催した。平和構築と防災分野における女性の参画とリーダーシップに関する日米の経験につき共有するとともに、JICAが米国ジョージタウン大学と協力して行っている同分野における支援のあり方研究を紹介するとともに、本共同研究でケース・スタディとして取り上げる事業の関係者を招いてパネルディスカッションを行った。</p>
<p>主な参加者</p>	<p>（午前の部） 開会挨拶 田中明彦（JICA理事長） 基調講演 メラニー・バーピア（ジョータウン大学女性・平和・安全保障研究所長） 特別ビデオメッセージ ミリアム・コロネルフェラー（ミンダナオ和平交渉団長） 講演 武川恵子（内閣府男女共同参画局長）</p> <p>（午後の部） JICA・ジョージタウン大学による研究プロジェクト発表 田中由美子、久保田真紀子（JICA国際協力専門員）、マイシャ・アラム、プリアナ・マウビー（ジョータウン大学女性・平和・安全保障研究所） 発表 池田恵子（静岡大学、減災と男女共同参画研修推進センター） 発表 ステフェニー・フォスター（米国務省国際女性問題室上級政策アドバイザー）</p> <p>【パネルディスカッション】</p> <p>モデレーター 田中由美子（JICA国際協力専門員）</p> <p>パネリスト セシル・メイ・オカド（フィリピン タナウアン町 防災担当官） ライサ・ジャジュリ（フィリピン パンサモロ移行委員会メンバー） ヘクマツ・シャヒ（アフガニスタン内務省ジェンダー・人権・子供の権利局長） ステフェニー・フォスター（米国務省国際女性問題室上級政策アドバイザー） 池田恵子（静岡大学教授、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表）</p>
<p>主な目的と成果</p>	<p>2000年の国連安保理決議1325号は、平和と安全保障のあらゆる段階での女性の参画や、紛争下の性的暴力からの保護、平和活動のあらゆる面におけるジェンダー主流化を促進することを打ち出している。性暴力を含む紛争による女性への影響と、積極的な「主体（エージェンシー）」としての女性が紛争予防、紛争解決、平和構築において果たしうる貢献を認識し、女性の参画とリーダーシップに焦点をあてている。</p> <p>JICAは米国ジョージタウン大学と協力し、平和構築と防災分野において、復旧・復興支援、予防等の各ステージ、また個々の事業における計画策定、実施とモニタリングのそれぞれの段階において、女性の参画とリーダーシップを高めていく支援のあり方を検討するため研究プロジェクトを実施している。この度、日本政府が主催する「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」（WAW ! Tokyo 2015）のサイドイベントとして、同研究の事例研究対象国であるフィリピンとアフガニスタンからスピーカーを招き、両国の事例を共有するとともに、日本と米国におけるジェンダー主流化の取組について共有した。</p>
<p>内容</p>	<p>午前の部では、ジョータウン大学女性・平和・安全保障研究所長で元米女性担当大使のメラニー・バーピア氏から国連安保理決議1325号のキーエレメントを説明。和平交渉に女性が参画することで、和平合意が実施に移されることが多いこと、政治的優先順位だけでなく草の根レベルで必要なものが明らかになること、宗教やコミュニティを超えたつながりも生まれる効果が期待できることなどを説明した。武川内閣府男女共同参画局長は阪神淡路大震災以降、度重なる大規模自然災害を踏まえて日本政府がジェンダー主流化を政策的にどのように進めてきたかについて説明、また、平常時からの男女参画の重要性を訴えた。</p> <p>午後の部ではJICAとジョータウン大学の共同研究でケース・スタディとして取り上げるプロジェクトの関係者として、フィリピン・パンサモロ移行委員会のライサ・ジャジュリ氏、アフガニスタンのヘクマティ・シャヒ内務省局長、フィリピン・タナウアン町のセシル・オカド防災担当官を迎え、平和構築と防災分野におけるジェンダー主流化の取組についてパネルセッションをおこなった。各パネリストの論点は以下のとおり。</p>

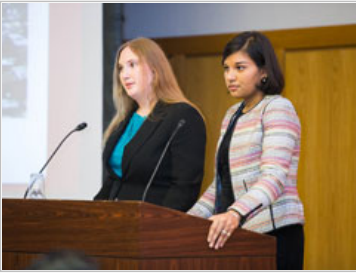
	<ul style="list-style-type: none"> ・セシル・メイ・オカド氏 2013年に超大型台風ヨランダの被害を受けたタナウアン市の復興の過程での女性の参画とそれを後押しする周囲の理解や環境づくりの重要性に言及。 ・ライサ・ジャジュリ氏 紛争によって女性は被害者となりがちだが、和平交渉への参加や、事前活動などを通じ平和構築の主体者ともなりえることをバンサモ口の例を用いて説明。女性が活躍するためにはそのための余地が確保されている必要があると指摘。また、男女の役割の違いについてのイデオロギーを変えることが障壁となっており、文化を保護しつつも女性の権利を守ることを両立させる難しさがあると主張。 ・ヘクマツト・シャヒ氏 アフガニスタンの伝統的な女性の立場や役割に関して説明した後で、女性への暴力の防止に関して女性警察が果たす役割と可能性について説明。 ・ステフェニー・フォスター氏 アフガニスタンにおける勤務経験より、平和構築への女性の参画には女性のエンパワメント、ジェンダー配慮、民軍連携、アカウントビリティが重要であると指摘。 ・池田恵子氏 災害リスク削減におけるジェンダー主流化は、女性のみ状況改善させることではなく、それによって男性の生活状況も改善する可能性もある。また、ジェンダー主流化は高齢者配慮にも通じるところがあり、高齢化の進むアジア各国などで日本の経験が役立つ可能性があるとし唆。
<p>関連リンク</p>	<p>WAW! HP 研究所イベントページ</p> <p>各発表資料・配布資料</p> <p>武川氏 Gender Mainstreaming in Disaster Risk Reduction The Japanese Experiences (PDF/916KB) 小林氏 Research Framework for the Study on Gender Mainstreaming in the Area of Peace-building & Disaster Risk Reduction (PDF/836KB) 田中氏 Gender and Disaster A Case Study of the Philippines and Sri Lanka (PDF/1.29MB) 久保田氏 Advancing Women's Participation and Leadership for Peace building The role of development agencies (PDF/1.49MB) アラム氏・マウビー氏 Gender-Responsive DRR in Haiti (PDF/640KB) 池田氏 災害リスク削減のための女性のリーダーシップ育成ー3.11以降の経験からー (PDF/928KB) オカド氏 REHABILITATION AND RECOVERY EFFORTS FROM THE FURY OF SUPER TYPHOON YOLANDA THE TANAUAN LEYTE CASE (PDF/3.36MB) ジャジュリ氏 WOMEN AND PEACEBUILDING THE CASE OF MINDANAO (PDF/2.85MB) シャヒ氏 アフガニスタンにおける女性への暴力防止の取組 女性警察の可能性 (PDF/0.98MB)</p>



午前の部質疑応答：左から畝・JICA研究所所長、田中・JICA理事長、パービア・ジョータウン大学女性・平和・安全保障研究所長、武川・内閣府男女共同参画局長



午後の部ジョージタウン大学とJICAの共同研究発表：久保田JICA国際協力専門員



午後の部ジョージタウン大学とJICAの共同研究発表：左からマウビー氏、アラム氏



パネルディスカッション：左から田中JICA国際協力専門員、オカド氏、ジャジュリ氏、シャヒ氏、池田氏、フォスター氏